

## 特集

### 大学生のフェアトレード活動～津田塾大学「チカス・ユニダス」 & 「kibo (キーボ)」～

NPO フェスタではお馴染みになった「チカス・ユニダス」と、今年初めて参加する「kibo」の学生たちに、それぞれの活動のお話を伺いました。

◆2年前にも本欄で「まちチョコ」を紹介したことのあるフェアトレード推進団体「チカス・ユニダス」は、もともと同大学国際関係学科の菊池京子教授のゼミから始まった活動です。教授の友人鏑木玲子さんが、ペルーの首都リマのスラム街に住む女性たちに手工芸の指導をし、その商品を販売して女性たちに収入を得る機会を与える活動をしていて、彼女からの依頼がきっかけで2004年に発足しました。当初は大学祭や生協での販売だけでしたが、2009年からはNPO フェスタにも参加、その後小平市民まつりや小平市国際交流フェスティバルなどのほか、市外のイベントにも積極的に参加して販路を拡大してきました。鏑木さんを窓口にして注文した商品が9月に届くと、学生たちが値札付けと袋詰をします。アルパカ製のニット商品以外に、最近では学生たちからの商品提案を取り入れて、300～1000円の小物も充実してきており、売上金全額（年間約50万円）をペルーに送金しているとのこと（NPO フェスタでの売上は塾祭に次いで2番目に多いそうです！）。彼女たちは内部勉強会の他、年に1度鏑木さんが帰国した際に情報交換をしたり、中には実際にペルーの現地を視察に行ってきた学生もいるそうです。これから11月にかけて、NPO フェスタ以外にも、東経大フェアトレード推進団体「結い～YouI～」など他大学のサークルと共同でイベントに参加するなど、しばらく忙しい日々が続くそうです。一方「まちチョコ」の活動も今年3年目。8月末まで募集していたパッケージデザインも決まり、まもなく発売されますので、どうぞお楽しみに！



◆国際協力サークルkibo (キーボ) は、2010年にできた団体で、先進国の飽食と開発途上国の飢餓

の2つの食料問題の同時解決に取り組む“TABLE FOR TWO”の考え方をもとに活動しています。現在支援しているのはアフリカのウガンダ、ルワンダ、エチオピア、タンザニア、ケニアのほか、最近ミャンマーも加わったとのこと。具体的には、学食に「TFT ランチ」という特別なヘルシーメニューを取り入れてもらい、1食につき20円がNPOを通じて開発途上国に寄付され、子どもたちの学校給食1食分になるという仕組みです。支援する側される側双方が健康になれるというメリットがあり、同大の学食では¥380で限定20食が販売されていました。



彼女たちに活動を始めた動機を尋ねてみました。チカス・ユニダスの現代表の長谷川さん（3年）は、専攻と同じ国際関係に関わるサークル活動をしたかったとのこと、またこの夏ペルーに行ってきたという丸山さん（2年）は、小学生の時にハンガーマップ（世界の飢餓状況を色分けして表現した世界地図）を見て世界を知り、入学前からチカス・ユニダスの活動に興味を持っていたそうです。kiboの久保さん（2年）も国際関係学科の学生。もともと食にも感心があったため“TABLE FOR TWO”の理念に惹かれて参加したそうです。真摯な活動の様子が伝わってくる彼女たちの話しぶりに、若い時からこのように社会に目を向けた活動をしている学生たちには“市民活動の芽”が育まれていくように思いました。

（取材：伊藤、田原）